

落語家

立川らく朝

立川らく朝(たてかわらくちょう)本名・福澤恒利。1954年1月26日、長野県生まれ。58歳。79年、杏林大医学部を卒業し慶大医学部内科学教室へ入局。慶大健康相談センター(人間ドック)医長を経て2002年、表参道福澤クリニックを開業。一方、杏林大時代に落語研究会を創設するほどの落語好きが高じて98年に立川志らくの弟子として入門。00年に本拠地を創設した。04年、家元の立川談志に認められ、二つ目に昇進。

「本人が楽しかったらいいんですけど不安感に押しつぶされて健康でしょ。それは願わばいいだけ。おらかな気持ちでいきましょうよ」

例えば、糖尿病患者には、病状にもよるが、カロリー制限は走らなきゃ、やせなきゃ、といふ不安感を抱えた健康管理に異を唱える。

視聴者が笑えて元気になる「診察室」

「はなし家は世情のアラを食いついてね。もともと、ちまたで話題になっていることをしゃべってお客さんを沸かせるもの。健康管理、医学関連は私のテリトリー」

ならではの最新作は時事ネタに健康情報を盛り込み、大いにウケた。

始めのきっかけは落語のような話。前座時代、ある会の打ち上げで「健康の話って面白くないわよね」と言われ、「落語みたいに楽しめてきたらいいですね」と返した。これがなぜか落語で健康企画ができるかと勧誘。後日、日時と場所を決められて「よってほいなきや困るわよ」とするけれども、生活習慣病の知識と予防法を入れたネタがウケてシリーズ化した。

「毎日考えてたら続かないですよ。たまにはハメを外して後で帳尻を合わせる。1週間入バンで考えてくと楽。そういう」

生活習慣病からIPS細胞まで

「ねはならぬ、がないんです。精神的にすく自由な人たち。しかもできること。ストレスをためないお手本です。同じくやられてわけじゃないけど、」

と怒られるかもしれないけど、落語に登場する愛すべきおバカな人々は、そんなメッセージを伝えるのに最適だ。

「ねはならぬ、がないんです。精神的にすく自由な人たち。しかもできること。ストレスをためないお手本です。同じくやられてわけじゃないけど、」

「画面を見てると、医者が自分話しかけてくれ、健康情報が伝えてくれる。そういうライブ感のある番組にしたい」

「健康落語がウケるわけをこう分析したが、番組も同じ。唯一無二のスタイルで、これからもしゃべり続ける。」

46歳で弟子入り足のわらじ!!

白衣の医師は、着物に着替え高座に上がる。プロ落語家と

10月から始まったBS日テレの健康情報ミニ番組「Drらく朝 笑いの診察室」(毎土曜・後9時54分)で、面白賢く、病気になる前に、落語家の立川らく朝と、医師でありながら、46歳で立川志らくの49門下に弟子入りし「足のわらじ」を履く。独自の創作落語「健康落語」を持ちネタにするなど、経歴を生かして活躍する個性派に聞いた。

(角田 史生)

健康落語が人気で年80公演

先月は話題のIPS細胞をテーマにした「夢の細胞」をネタにおろし、京大の山中伸弥教授のノーベル賞受賞会見から2週間で作った。

「はなし家は世情のアラを食いついてね。もともと、ちまたで話題になっていることをしゃべってお客さんを沸かせるもの。健康管理、医学関連は私のテリトリー」



大健康

題字は西川ヘレンさん

Dr. 新家のオススは

モットーは「ピンチねばならぬ」



落語家ながら医学博士の肩書を持つ立川らく朝さん。得意の落語でヘルシーライフのヒントを伝える「カメラ・角田 史生」(右上)高座では「健康落語」を披露

毎週土曜午後9時54分から放送中

Drらく朝 笑いの診察室 BS日テレで毎週土曜午後9時54分～10時に放送中の健康情報ミニ番組。立川らく朝さんが毎週1つの疾患について、ことわざを通じてメカニズムや特徴、予防法を笑い交えてやさしく解説する。生活習慣病を中心とした疾患啓発が目的で、10日は乳がん、17日は高血圧症、24日に痛風を放送予定。ジェネリック医薬品の国内最大手メーカー「沢井製薬」が1社提供し、同社健康情報サイト「健康かけいほ」(http://www.sawai.co.jp/kenko-kakeibo/)の特設ページでも動画公開中。

めぐる屋外彫刻館「宇宙」(あち)川に沿って歩く。ろから「子供を授かるなはいえ、ハート」の滝も、近鉄寺堂、鳥取、現術